

水田宗子評論集『モダニズムと〈戦後女性詩〉の展開』刊行記念シンポジウム 「左川ちかから手渡されるもの ― 詩とジェンダー、その先へ」

1911年2月に北海道に生まれ、24歳の若さで夭折した、モダニズムを代表する女性詩人、左川ちか。昨年は、この詩人の生誕100年にあたる。このたび刊行された水田宗子評論集『モダニズムと〈戦後女性詩〉の展開』（思潮社）では、左川ちかを起点として、茨木のり子、石垣りん、吉原幸子、高良留美子、白石かずこら戦後女性詩人の表現に、近代の「惨事」の生き残りとしての存在感覚、生き延びた者たちの「生還の途上の想像力」を読み取り、「女」から「個人」へ、「個人」から「個体」へ、「わたし」から「不確かな自己へ」、「わたし」という存在感覚が不確かになっていく時代において、ジェンダーの外部を志向する女性詩人たちが引き受けた自己表象の課題を浮き彫りにする。

本シンポジウムでは、第Ⅰ部において、この本の著者である水田宗子氏に基調講演をお願いし、第Ⅱ部では、それぞれの視点から、現代のジェンダーと詩の関係、ジェンダーを超えた詩の表現の可能性についてお話を伺いたいと思います。

第Ⅰ部

14:00～14:20 水田 宗子（詩人・比較文学者）

「わたし語り」から自己表象へ―現代女性詩の「惨事のあと」の感性

第Ⅱ部

14:30～16:00 藤井 貞和（詩人・国文学者）

井坂 洋子（詩人）

水無田気流（詩人）

日時

4/14（土）

14:00～16:00（終了後レセプション）

会場

学校法人城西大学
紀尾井町キャンパス 地下ホール
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
<http://www.josai.jp>

会費

無 料

主催 思潮社

